

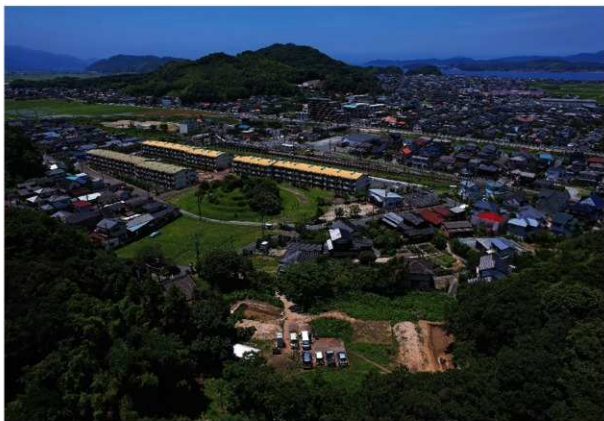
かみ あり よこ ばたけ し と お ぎ た
神在横畠遺跡2・志登尾北遺跡

糸島市文化財調査報告書

第 19 集

2019

糸島市教育委員会



1-1 神在横畠遺跡上空からと釜塚古墳方面を望む



1-2 神在横畠遺跡第2次調査調査区全景



2-1 志登集落遠景



2-2 志登尾北道跡調査区全景

序

本書は平成30年度に神在横島遺跡第2次調査および志登尾北遺跡において実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

両遺跡が所在する糸島市は3世紀の歴史書『魏志』倭人伝に登場する伊都国が所在したと考えられる場所で、古来より、中国・朝鮮半島との積極的な交流が展開され、我が国の文化形成に大きな役割を果たしてきました。

そのような背景の中、神在横島遺跡から、県内2例目となる古墳時代の直弧文の線刻が施された紡錘車が出土し、志登尾北遺跡からは中世の居館を巡ると考えられる濠が検出され、本市の歴史を物語る重要な成果を上げることができました。

本書が当該遺跡の内容を将来にわたって伝えていく資料としてだけでなく、当地の歴史を解明する上での一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに報告書作成にあたり、ご協力をいただきました関係機関、関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成31年3月31日

糸島市教育委員会
教育長 家宇治 正幸

例言

1. 本書は糸島市に所在する神在横島遺跡第2次調査および志登尾北遺跡で平成30年度に実施した発掘調査の成果をまとめたものである。
2. 本遺跡の調査は株式会社 総合住建の委託を受け実施した。
3. 遺構の実測は平尾和久・秋田雄也が行った。
4. 写真は空中写真を（有）空中写真企画 代表 諫山広宣に委託し、その他は平尾・秋田が撮影した。
5. 本書に掲載した全体図等の座標は世界測地系を用いている。方位に関しては磁北で示している。
6. 遺物の復元・実測・製図にあたっては、平尾・秋田のほか藤野さゆり・田中阿早緑・内山久世・蔵田和美・稲富良子・山崎嵩雄が行った。
7. 志登尾北遺跡出土鉄器類の分析に関しては、福岡市埋蔵文化財センターの比佐陽一郎氏・松園菜穂氏に依頼した。
8. 出土遺物および検出遺構に示すスクリーントーンの表示は以下の通り。

 丹塗り  スス  コゲ  黒斑  被熱

9. 本書の執筆・編集は平尾の助言を受け秋田が行った。

本文目次

第1章	はじめに	1
1.	調査に至る経過	1
2.	調査の組織	1
第2章	位置と環境	1
第3章	調査の記録	3
1.	神在横島遺跡第2次調査	3
(1)	調査の概要	3
(2)	遺構と遺物	5
(3)	まとめ	8
2.	志登尾北遺跡	9
(1)	調査の概要	9
(2)	遺構と遺物	13
(3)	まとめ	23
第4章	おわりに	23

挿図目次

第1図	糸島市主要遺跡分布図(1/50,000)	第12図	志登尾北遺跡遺構配置図(1/100)
第2図	神在横島遺跡周辺図(1/2,500)	第13図	志登尾北遺跡1・5・6号住居跡平面実測図(1/40)
第3図	神在横島遺跡第1・2次調査区位置図(1/600)	第14図	志登尾北遺跡1・2号掘立柱建物平面実測図(1/40)
第4図	神在横島遺跡Ⅰ・Ⅱ区遺構配置図(1/100)	第15図	志登尾北遺跡1・3号井戸平面実測図(1/40)
第5図	神在横島遺跡Ⅱ区焼土坑平面実測図(1/40)	第16図	志登尾北遺跡土器廃棄遺構平面実測図(1/20)
第6図	神在横島遺跡Ⅱ区土器溜まり平面実測図(1/40)	第17図	志登尾北遺跡南側溝状遺構ベルト西壁土層断面図(1/40)
第7図	神在横島遺跡Ⅱ区東西トレンチ土層断面図(1/60)	第18図	志登尾北遺跡大溝ベルト西壁土層断面図(1/40)
第8図	神在横島遺跡Ⅱ区南北トレンチ土層断面図(1/60)	第19図	志登尾北遺跡調査区東壁土層断面図(1/40)
第9図	神在横島遺跡第2次調査出土遺物実測図(●は1/2、1/3)	第20図	志登尾北遺跡土坑平面実測図(1/40)
第10図	志登尾北遺跡周辺図(1/5,000)		
第11図	志登尾北遺跡調査区位置図(1/300)		

- 第21図 志登尾北遺跡住居跡・土坑・井戸・
ピット・南側溝状遺構出土遺物実測図
(●は1/2、1/3)
- 第22図 志登尾北遺跡土器廃棄遺構出土遺物
実測図 (1/3)

- 第23図 志登尾北遺跡大溝出土遺物実測図1
(1/3)
- 第24図 志登尾北遺跡大溝出土遺物実測図2
(●は1/2、1/3)

図 版 目 次

- 巻頭図版 1-1 神在横島遺跡上空からと釜
塚古墳方面を望む
- 巻頭図版 1-2 神在横島遺跡第2次調査調
査区全景
- 巻頭図版 2-1 志登集落遠景
- 巻頭図版 2-2 志登尾北遺跡調査区全景
- 図版 1 1-1 神在横島遺跡第2次調査Ⅰ
区全景（北東から撮影）
- 1-2 神在横島遺跡2次調査Ⅱ区
（南西から撮影）
- 1-3 神在横島遺跡2次調査Ⅰ区
紡錘車出土状況
- 1-4 神在横島遺跡2次調査Ⅱ区
土器溜まり全景
- 1-5 神在横島遺跡2次調査Ⅱ区
土器溜まり土器集積状況
- 1-6 神在横島遺跡2次調査Ⅱ区
焼土坑全景
- 図版 2 神在横島遺跡第2次調査出土遺物
- 図版 3 3-1 志登尾北遺跡全景
- 3-2 志登尾北遺跡大溝（北西か
ら撮影）
- 3-3 志登尾北遺跡大溝土層断面
- 3-4 志登尾北遺跡3号井戸全景
- 3-5 志登尾北遺跡土坑
- 3-6 志登尾北遺跡土器廃棄遺構
- 図版 4 志登尾北遺跡出土遺物（大溝）
- 図版 5 志登尾北遺跡出土遺物（住居跡、井
戸）
- 図版 6 志登尾北遺跡出土遺物（土器廃棄遺
構、南側溝状遺構、ピット）

第1章 はじめに

1. 調査に至る経過

神在横島遺跡第2次調査は宅地分譲の引き込み道路建設に伴い実施されたものである。糸島市は福岡市のベットタウンとして発展しており、近年はJR筑肥線沿いの開発が加速している。このような流れの中、JR加布里駅近くに位置する神在横島遺跡においても開発が行われることとなった。神在横島遺跡の開発計画に伴い、平成30年4月に文化財保護法93条2項に基づく埋蔵文化財発掘調査の届出が提出された。これを受け、糸島市教育委員会では同年2月に試掘調査を実施し、ピットなどの遺構が確認された。この結果に基づき会社と協議を行なったが、遺跡の保存は難しいという判断により発掘調査を実施することとなった。

また、志登尾北遺跡発掘調査は宅地造成の引き込み道路建設に伴い実施されたもので、平成30年5月に文化財保護法93条2項に基づく埋蔵文化財発掘調査の届出が提出された。これを受け、糸島市教育委員会では同年5月に試掘調査を実施し、溝やピットなどの遺構を確認した。この結果に基づき会社と協議を行なったが、遺跡の保存は難しいという判断により発掘調査を実施することとなった。

2. 調査の組織

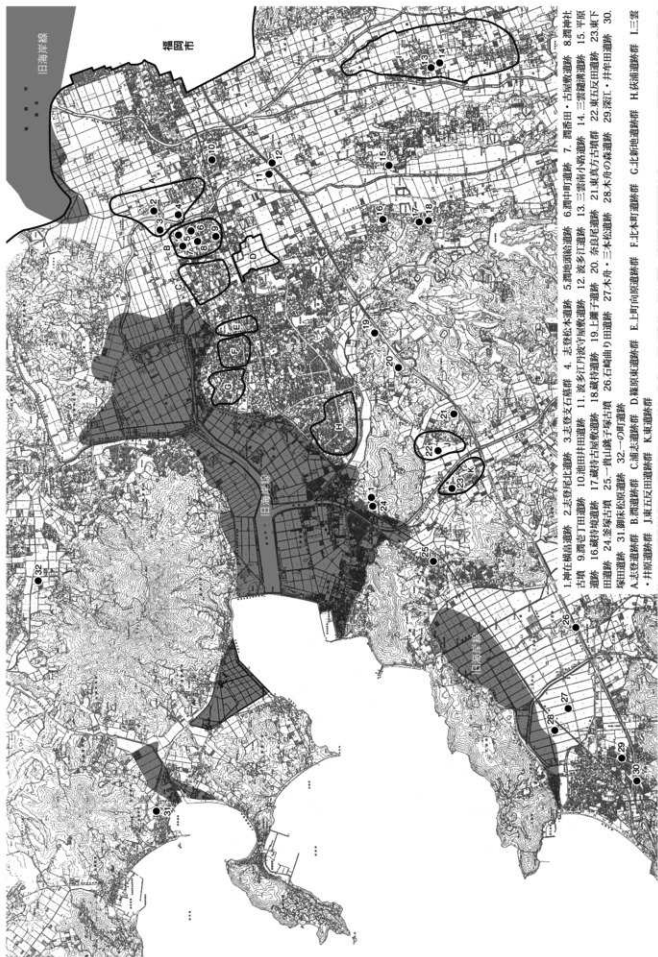
今回の発掘調査および報告書作成に係る組織は以下の通りである。

調査主体者	糸島市教育委員会		
総括	教育長	家宇治正幸	
	教育部長	泊 早苗	
	文化課長	岡部裕俊	
	文化課長補佐兼文化・図書館係長	古川秀幸	
	文化課長補佐兼文化財係長	村上 敦	
庶務	同文化・図書館係	主査	大園高弘 主事 岸根麗華
調査	同文化財係	主幹	平尾和久 主事 秋田雄也

第2章 位置と環境

神在地区は宮地嶽の麓および長野川下流域に位置する。近隣では古く縄文時代から数多くの遺跡が確認されている。特に長野川河口付近では市内最大の前方後円墳である一貴山鏡子塚古墳（国史跡）や釜塚古墳（国史跡）がある。

志登地区は糸島平野中央部に位置し、雷山川の東隣に所在する。当地は江戸時代に東西の入海が干拓されるまで、志摩地域と怡土地域を結ぶ陸橋となっていた。志登地区を代表する遺跡である志登支石墓群（国史跡）は、弥生時代前期から中期にかけての、墓地遺跡である。また志登尾北遺跡の位置する志登集落には古くからの家が多く残る。



第1図 米島市主要遺跡分布図 (1/50,000)

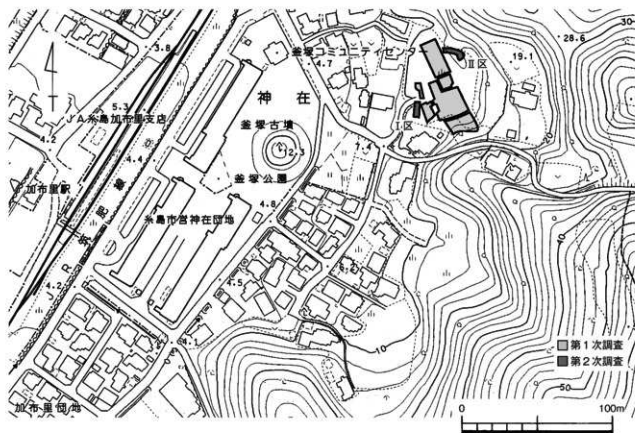
第3章 調査の記録

1. 神在横島遺跡第2次調査

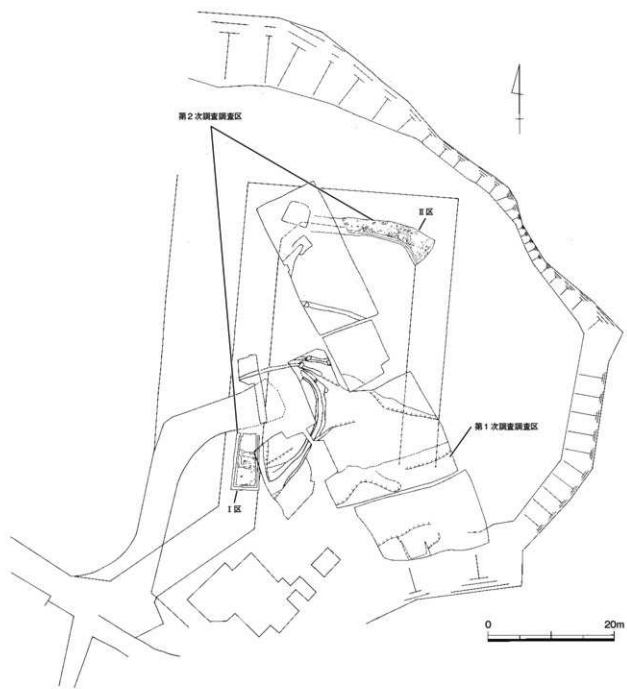
(1) 調査の概要

本地点は宮地嶽北西裾に向かって延びる二筋の尾根に挟まれた狭い谷間に位置する。神在横島遺跡第1次調査は平成8・9年度に行われており、本調査は第2次調査にあたる(第2図)。第1次調査では、周溝が確認され、直径約23mの古墳が存在することが判明し、横島古墳と名付けられた。周溝からは、円筒埴輪や朝顔形埴輪が出土しており、100mほど南西に位置している国史跡釜塚古墳より後出する古墳と考えられている。調査時点ですでに墳丘は削平されていたようで、埋葬施設など詳細は不明である。そのほか、古墳時代後期後半から奈良時代にかけての竪穴住居や掘立柱建物、柱穴なども確認されている(野田編2000)。

第2次調査は開発予定地の引き込み道路部分南西部のⅠ区、北部から西部に向かって伸びるⅡ区の2つの調査区から構成される(第3図)。Ⅰ区は溝以外は攪乱がほとんどで、出土遺物も少なく、溝から直弧文の線刻が施された県内2例目となる古墳時代の紡錘車出土したのみであった。紡錘車の出土に関しては貴重な例であることから、記者発表を行った。Ⅱ区の西側は、攪乱により遺跡の多くが削られていたが、東側では古代の鍛冶関連焼土坑が検出された。またⅡ区の旧地形は北部の尾根に向かって高くなっているが、整地造成を行なっている。なお、造成はトレンチを設定し、土層を観察



第2図 神在横島遺跡周辺図 (1/2,500)



第3図 神在横畠遺跡第1・2次調査区位置図 (1/600)

することで確認した(第7・8図)。本遺跡の時代幅としては、第1次調査と同様で、古墳時代後期後半から奈良時代を中心とする。なお、現地説明会を平成30年7月7日に計画していたが雨天のため中止となった。

(2) 遺構と遺物

①溝(第4図) I区の北側で検出された東西方向に延びる溝で、長さ2.3m、幅0.8m、深さ7.8cmを測る。

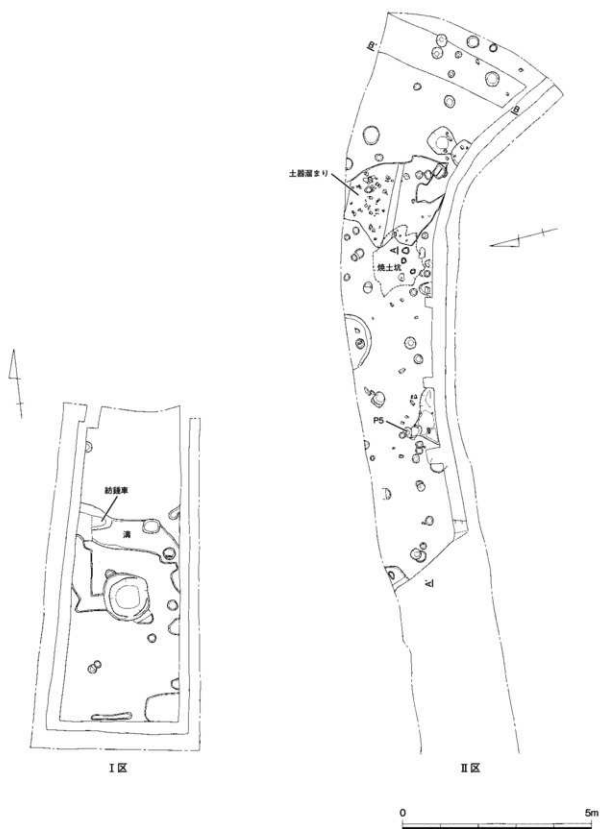
出土遺物(第9図1) 1はI区において出土した石製紡錘車である。直径5.0cm、孔径0.6cm、厚さ1.2cmを測り、石材は蛇紋岩で色調は灰黒褐色である。上面と下面の両面に線刻が施されており、断面は台形状をなしている。上面は鋸歯文の線刻があり、その周りは放射状の線刻が施される。さらに、斜面には崩れた直弧文のような線刻がされる。下面にも崩れた直弧文のような線刻が施されている。類似した文様が施された例としては福岡県久留米市の西行2号墳で確認できる。共伴遺物がなく時期の特定は難しいが西行2号墳は5世紀後半の古墳のため、本例も同様の時期であると考えたい。

②焼土坑(第5図) II区東側で検出された土坑で、中央部付近は当初確認することができず、削りすぎている。土坑中央部で南北1.4m、東西1.9m、深さ2cmを測る。中央部は明黄赤褐色を呈し、黒褐色の炭化物の粒が混じる。土坑中央部の周囲は赤茶褐色で、特に熱を受けている様子がわかる。掘り込みはほとんどなく、この焼土坑周辺からは鉄滓が出土している。このことから焼土坑は鍛冶関連遺構と推測できる。

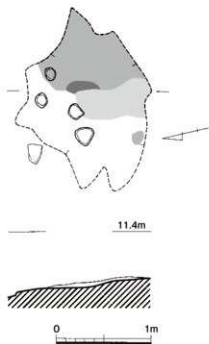
③土器溜まり(第6図) II区東側、焼土坑東側において検出された不定形の土器溜まりで、中央部付近で南北2.4m、東西2.3mを測る。北側からの流れ込み等によって土器が一箇所に集積したと考えられる。

出土遺物(第9図2・7～10) 2は土師器の甕である。残存高は4.8cm、復元口径は22.8cmを測る。7は須恵器坏身で、高さ4.3cm、復元口径13.4cmを測る。8は須恵器坏蓋で、外面頂部に直線状のヘラ記号が施される。9は須恵器坏蓋で、残存高3.5cm、復元口径13.8cmを測る。10は須恵器高坏の脚部である。外面と内部は赤焼けの部分があり、残存高4.9cm、底径10.0cmを測る。

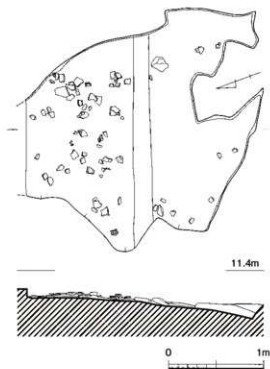
④包含層およびその他遺構出土遺物(第4図・第9図3～6・11～15) 3～5はII区包含層から出土した。3は土師器甕で、外面のタタキが明瞭に残る。4は土師器丸底壺で口縁部内面にヨコナデを確認できる。残存高5.2cm、復元口径9.8cmを測る。5は須恵器坏身で、底部に直線状のヘラ記号が2本確認できる。時期は牛頭編年ⅢB期で、残存高2.8cm、復元口径12.8cmを測る。6はII区ピット5(第4図)出土の須恵器坏身で、底部に中心から外にのびるヘラ記号が2本ある。11は鉄釘であり、II区西側の現代の攪乱近くから出土し、長さ4.0cmを測る。12～15は鉄滓である。全て鍛冶滓と考えられ、包含層出土のものは焼土坑近くから出土している。



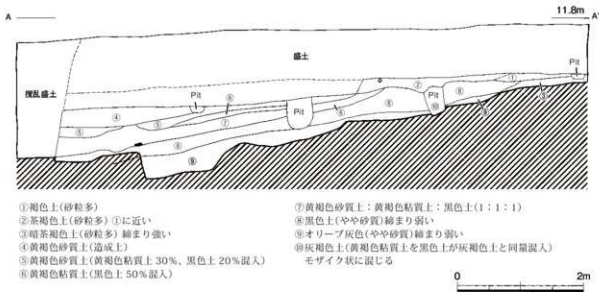
第4図 神在横畠遺跡Ⅰ・Ⅱ区遺構配置図 (1/100)



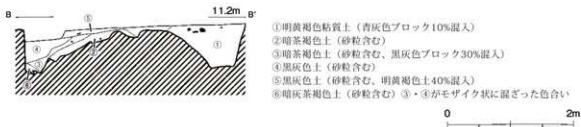
第5図 神在横島遺跡Ⅱ区焼土坑平面実測図
(1/40)



第6図 神在横島遺跡Ⅱ区土器溜まり平面実測図
(1/40)



第7図 神在横島遺跡Ⅱ区東西トレンチ土層断面図(1/60)



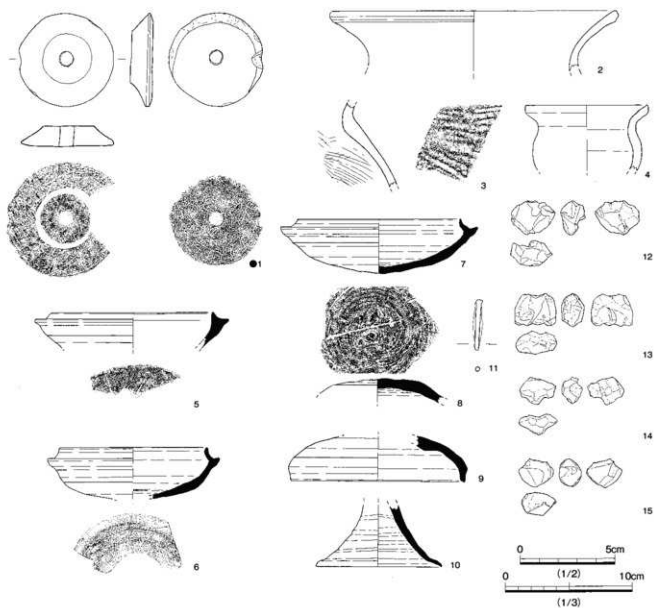
第8図 神在横島遺跡Ⅱ区南北トレンチ土層断面図(1/60)

(3) まとめ

調査地点から出土した土器は古墳時代後期後半から奈良時代に及ぶ。Ⅰ区の溝からは石製紡錘車が出土した。類例が出土した福岡県久留米市西行2号墳の時期から5世紀後半と推測する。1次調査の際にⅠ区の東隣で横島古墳が確認されており、紡錘車の時期と近いことから、両者の関連性がうかがわれる。

また、Ⅱ区の主な遺構として、土器溜まりと焼土坑がある。土器溜まりの土器は、Ⅱ区の背後にある尾根からの流れ込みであろう。焼土坑については、周囲から出土した鉄滓から鍛冶関連遺構と考えられる。また、2本のトレンチにより、Ⅱ区は大きく造成されていたことが判明した。焼土坑も造成土の上に作られている。

【参考文献】 萩原裕房編1993『西行古墳群』久留米市文化財調査報告書第84集
野田純子編2000『神在横島遺跡』前原市文化財調査報告書第71集
石川 健・舟山良一編2008『牛頭窯跡群-総括報告書Ⅰ-』大野城市文化財調査報告書第77集



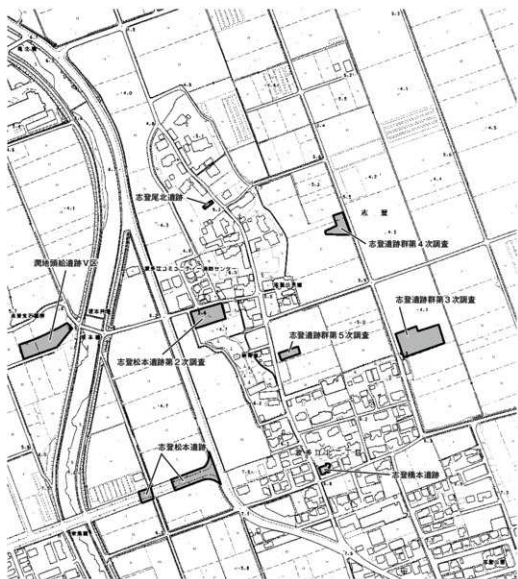
第9図 神在横島遺跡第2次調査出土遺物実測図 (●は1/2、1/3)

2. 志登尾北遺跡

(1) 調査の概要

調査地点は糸島平野のほぼ中央に位置し、平野内でも標高の低い場所である。西を雷山川、東を瑞梅寺川に挟まれている。本地点は志登集落内でも特に古い街並みが残る場所であり、周囲に防風林を巡らした土壁の家々が立ち並ぶ。

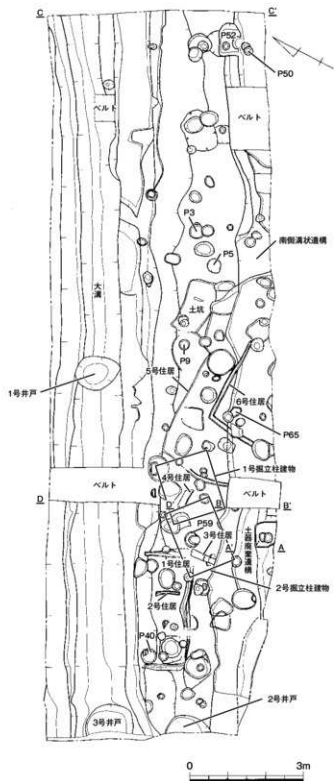
調査区は敷地内のほぼ中央に位置する（第11図）。東側は表土下20cm程度のところから遺構が検出されたが、西側は50cm程度の深さからの検出であった。また、調査区は南北に分かれ、北側半分は全て溝状遺構である（第12図）。なお、調査区外ではあるが、宅地造成予定敷地内西側には雷山川に向かって段落ちがあり、南北方向へ集落に沿うように延びている。



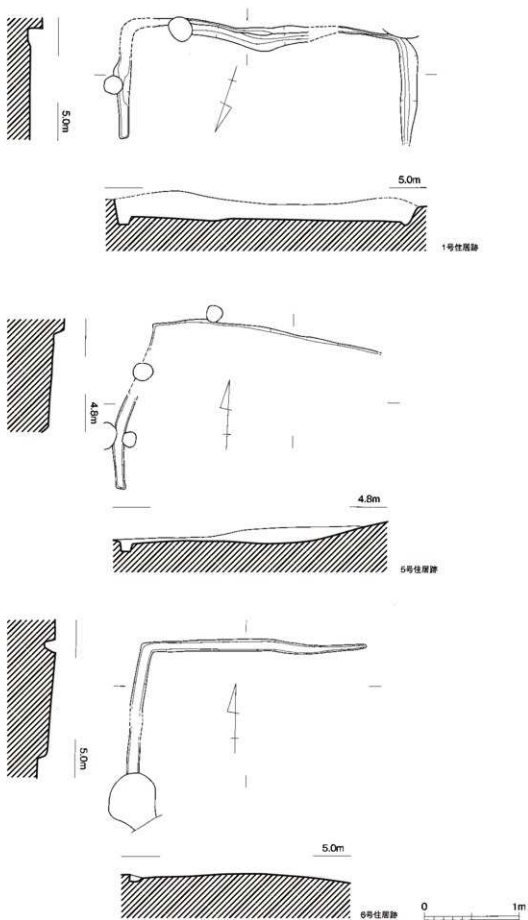
第10図 志登尾北遺跡周辺図 (1/5,000)



第11图 志登尾北道跡調査区位置図 (1/300)



第12図 志登尾北道跡遺構配置図 (1/100)



第13図 志登尾北遺跡1・5・6号住居跡平面実測図(1/40)

(2) 遺構と遺物

①住居跡

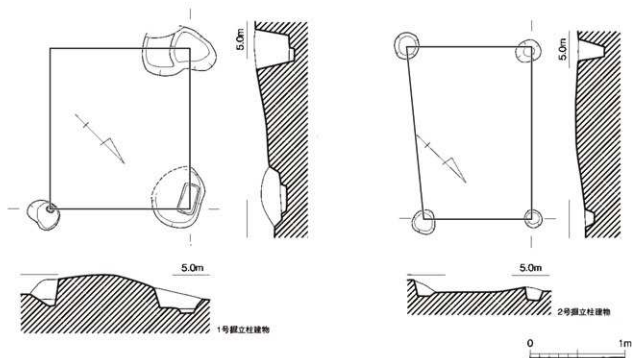
1号住居跡(第13図) 方形に区画する3辺の排水溝のみの検出にとどまる。時期は不明で、住居内に対応する柱穴や遺物は確認できなかった。方形プランの北側は大溝に切られている。

出土遺物(第21図1) 1は1号住居跡出土の土師器の壺で、内面に黒斑が残る。残存高5.1cm、復元口径16.4cmを測る。

2号住居跡(第12図) 1号住居跡の方形プラン内西側で検出されている。1辺しか検出されておらず、遺物は出土していない。

3号住居跡(第12図) 1号住居跡南東に位置する。2号住居跡と同様に1辺しか検出されていない。

出土遺物(第21図2～6) 2は土師器鉢で外面に丹塗りが施され、外面の一部にススが残る。残存高4.9cm、復元口径19.9cmを測る。3は土師器小壺で口縁部が失われている。外面に黒斑が残る、内面にはハケメが施されている。残存高5.5cmを測る。4は須恵器坏蓋で口縁部周辺が残存している。時期は牛頭編年VIAと考えられる。5は鼓形器台で外面は浅黄橙色。内面は淡橙色を呈し、残存高6.7cmを測る。6は鉄鏝で茎部が一部欠損しており、残存長4.6cm、幅1.4cm、厚さ3.0mmを測る。



第14図 志登尾北遺跡1・2号獨立柱建物平面実測図(1/40)

4号住居跡(第12図) 3号住居跡の北東側で検出され、1辺しか検出されていない。出土遺物は確認されていない。

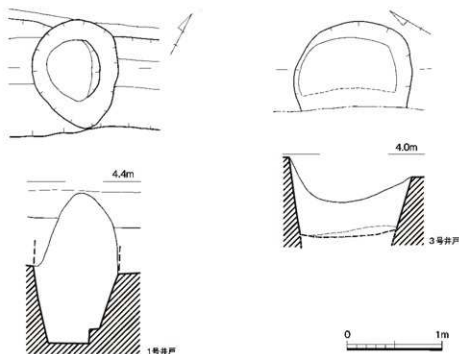
5号住居跡(第13図) 1号住居跡同様に方形に区画するであろう住居跡の排水溝を2辺検出した。時期は不明で、対応する柱穴や遺物は確認できない。

6号住居跡(第13図) 方形に区画する住居の排水溝を2辺検出した。他の2つの住居跡と同様に対応する柱穴や遺物は確認できない。

②掘立柱建物

1号掘立柱建物(第14図) 調査区西側において検出した。1間×1間のプランで1辺1.48m×1.66mを測り、南側溝状遺構に切られている。主軸は北東で、出土遺物は確認されていない。

2号掘立柱建物(第14図) 1号掘立柱建物と同様に調査区西側で検出をした。1間×1間のプランで1辺1.32m×1.80mを測り、北西の柱穴は1号住居跡を切っている。主軸は北東で、出土遺物は確認されていない。



第15図 志登尾北遺跡1・3号井戸断面実測図(1/40)

③井戸

1号井戸(第15図) 大溝中央部から検出された井戸で、ややいびつな円形をしており、底に一段テラスがつく。検出面からの深さは1.58mを測る。

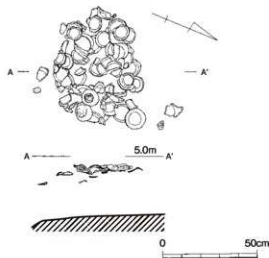
出土遺物(第21図7～11) 7は須恵器の口縁部片で、外面に自然釉がかかる。8は井戸の下層から出土した瓦器椀で、全体を磨いており、時期は12世紀ごろである。残存高3.7cm、復元口径14.6cmを測る。9は弥生土器の器台であり、外面の一部が風化している。10は瓦器椀の口縁部片で内外面にミガキが残る。11は1号井戸廃土中から発見された草食動物の歯である。

2号井戸(第12図) 調査区西端南側で検出された井戸で、半分以上が調査区外に延びる。また、安全上の理由から完掘しておらず、土層の実測もできなかった。

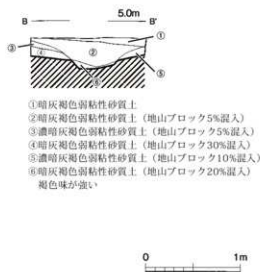
出土遺物(第21図12～14) 12は土師器椀で、橙褐色を呈し、残存高2.2cm、復元底径6.9cmである。時期は14世紀ごろである。13は土師器椀で、外面にススが付着し、内面にはコゲが残る。14は土師器杯で内面に薄いコゲが付着する。

3号井戸(第15図) 調査区西端の大溝で検出された。半分ほどが調査区外に延び、安全上の理由から完掘していない。検出面からの深さは0.84m以上になる。

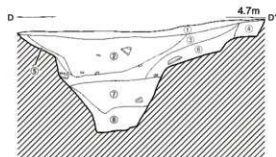
出土遺物(第21図15) 15は外面は格子タタキ、内面は板状工具によるナデが施されている陶質の土器である。内外面ともに灰白色を呈し、内面の大部分は剝離している。最大幅は6.3cmを測る。



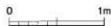
第16図 志登尾北遺跡土器廃棄遺構断面実測図 (1/20)



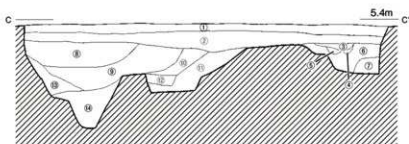
第17図 志登尾北遺跡南側溝状遺構ベルト西壁土層断面図(1/40)



- ①黒茶褐色（地山ブロック5%混入）
- ②黒灰茶褐色弱粘質土（地山ブロック20%混入）
- ③濃黒灰茶褐色弱粘質土（地山ブロック10%混入）
- ④淡赤茶褐色弱粘質土（地山ブロック60%混入）
- ⑤黒灰褐色弱粘性砂質土（地山ブロック10%混入）
- ⑥黒灰褐色弱粘性砂質土（地山ブロック10%混入）
- ⑦青灰褐色砂質土（草木が混入）
- ⑧青灰褐色粘質土（地山ブロック10%混入）



第18図 志登尾北道跡大溝ベルト西壁土層断面図（1/40）



- ①黒茶褐色（地山ブロック5%混入）表土
- ②暗褐色砂質土
- ③暗茶褐色砂質土（地山ブロック10%混入）
- ④暗灰茶褐色砂質土（地山ブロック10%混入）
- ⑤暗茶褐色砂質土
- ⑥暗茶褐色砂質土（地山ブロック10%混入）
- ⑦暗黒褐色砂質土
- ⑧暗茶褐色砂質土（地山ブロック10%混入）
- ⑨暗茶褐色砂質土（地山ブロック10%混入）
- ⑩暗茶褐色砂質土（地山ブロック5%混入）
- ⑪暗茶褐色砂質土（地山ブロック20%混入）
- ⑫黒灰褐色砂質土（地山ブロック20%混入）
- ⑬黒灰褐色砂質土
- ⑭暗黒灰褐色弱粘性砂質土



第19図 志登尾北道跡調査区東壁土層断面図（1/40）

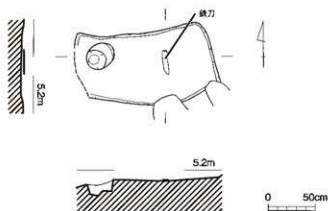
④溝

南側溝状遺構（第17図） 調査区南側、段落ち状に東西方向に伸びる。ベルト西壁土層断面図を確認すると、全体に地山のブロックが混入していることが特徴である。南側溝状遺構の出土遺物は比較的新しいものが多く、近世以降を中心としている。

出土遺物（第21図24） 24は三角錐状の鉄製品で、残存長7.5cm、重さ53.81gを測り、上部と下部共に欠損している。鉄製品のX線写真を撮影していただいた福岡市埋蔵文化財センターの比佐陽一郎氏・松園菜穂氏によると、石突であるご教示いただいた。X線写真（図版5 21-24）を確認すると、中が中空になっていることがわかる。

大溝（第12図） 調査区北側を東西に横断している。断面はV字に近い逆台形状をしており、深いところでは1.5m前後、幅は場所にもよるが2～3m前後を示す。また大溝ベルト西壁土層断面図（第18図）からは大溝そのものが地山に切り込んでいる様子とともに、レンズ状に土層が堆積している様子が見て取れる。①～⑥・⑧層には地山ブロックが混入しているが、⑦層に地山ブロックは確認できない。また、⑦層には木の根や草葉が残存している。これは一定期間、大溝が埋没しないまま長時間に渡り、堀として機能していたことを意味しており、その後、大溝が埋められたと推測される。なお、調査区東壁土層断面図（第19図）を確認すると大溝が地山を掘り込み造られたことがわかる。出土遺物（第23・24図） 1は弥生土器の沓形器台の頭部でおおよそ1/3が残存している。内面には指で押さえた跡が残る。2は土師器丸底壺である。古墳時代前期のもので、口縁はやや外に立ち上がり、外面には丹が残る。残存高6.1cm、口径8.1cmを測る。3は須恵器坏身である。時期は古代のもので牛頭編年VIA期頃と思われる。

4・5は土鍋である。4は外面にスス、内面には明瞭なヨコハケが残る。残存高12.3cm、口径36.0cmを測り、2/3程度が残存。5は内面には明瞭なヨコハケが残っている。残存高9.1cm、口径27.9cmを測り、2/3程度が残っている。6は耳付の鍋である。外面にススが付着している。耳の2つの穴は外と内側の両側から開けられているようである。残存高11.1cm、復元口径26.0cmを測り、時期は16世紀頃にあたる。7は防長系の足鍋胴部である。全体に濃いススが付着し、上部および内面にはナデ、下部には格子タタキが施されている。残存高12.1cm、復元口径26.3cmを測る。8は防長系足鍋の脚部の一部である。7のような足鍋の胴部に付いていたと考えられる。9は瓦質の風炉のような煮沸具である。肩部からの立ち上がり部分の外面にスタンプが施されている。残存高6.2cm、復元口径26.0cmを測る。10は瓦質播鉢である。口縁部内側はくの字状に屈曲し、内面には櫛目が施されている。11も10と同様、瓦質の播鉢である。10とは、口縁部の形状が異なり、内側が玉縁状になっている。残存高6.8cmを測る。12～18は土師器坏である。12の底部は回転糸切りである。高さ2.6cm、復元口径14.6cmを測る。13は土師器坏で、底部は回転糸切り。高さ2.9cm、復元口径11.5cmを測る。14は土師器坏で、底部は糸切り。また、12、13と比べて口縁部に丸みを帯びる。高さ2.9cm、復元口径10.7cmを測る。15は土師器坏で、底部は回転糸切り。高さ2.1cm、口径8.9cmを測る。底部は若干内側に湾曲している。16は土師器坏で、底部は回転糸切り、胴部は若干の丸みを帯びる。高さ1.8cm、復元口径9.0cmを測る。17は土師器坏、底部は回転糸切りで内側に湾曲する。高さ2.2cm、口径9.2cmを測る。18は土師器坏、底部は回転糸切りである。高さ2.0cm、口径8.4cmを測る。19は土師器小皿、底部は回転糸切りで内側に湾曲し、口縁部は丸みを帯びている。高さ1.5cm、口径8.2cmを測る。20は土師器小皿、底部は回転糸切りで、高さ1.1cm、復元口径8.3cmを測る。21は土師器小皿、底部は回転糸切りで、高さ2.0cm、口径7.8cmを測る。22は土師器の耳皿である。底部は回転糸切りで、内面底にろくろ回転の跡が確認できる。高さ2.0cm、口径6.2cmを測る。これら土師器坏と小皿はおおよそ15～16世紀ごろのものと考えられる。23は龍泉窯系青磁の椀で大宰府分類龍泉窯系青磁椀I-5-6類であり、13～14世紀のものである。高さ6.4cm、口径16.0cmを測る。24は玉縁口縁の白磁椀である。底部を失っているが、大宰府分類白磁椀IV類にあてはまり、時期は11世紀後半から12世紀前半ごろである。復元口径15.8cmを測る。25は白磁



第20図 志登尾北遺跡土坑平面実測図 (1/40)

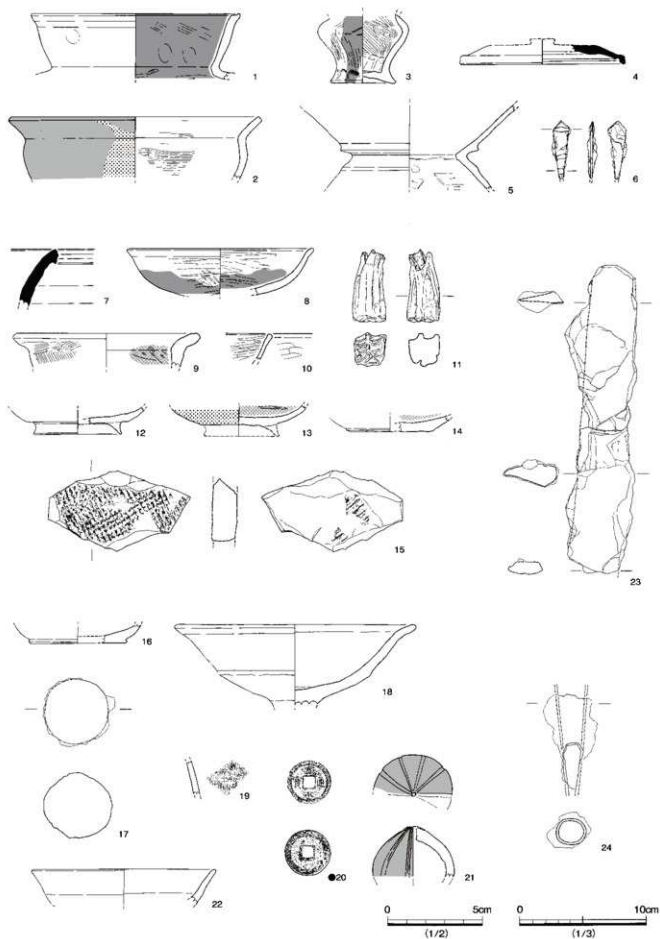
碗で、口縁部が失われている。高台の形態から24と同様の大宰府分類白磁碗Ⅳ類にあてはまる。26は朝鮮雑軸陶器の碗底部である。外面はオリーブ灰色で内部は砂目地が残る。27は古唐津の碗で一部に鉄絵が描かれてる。28は古唐津の碗で、内面胴部に草をあしらった鉄絵を施している。内面底部には砂目地が残る。29は淡褐色の陶器の底部で、見込みに「安」と描かれている。30～33は砥石である。31-33はおおよその断面形状が方形に近づくように石を整形加工している。34は中国唐代の「乾元重宝」である。初鑄は758年で、直径2.4cm、厚さ1.2mm、重さ2.23gである。35は棒状金属製品で用途は不明。長さ5.5cmを測る。

⑤土坑 (第20図) 調査区中央部で検出された。長軸1.4m、短軸0.8m、深さ5cmを測る。

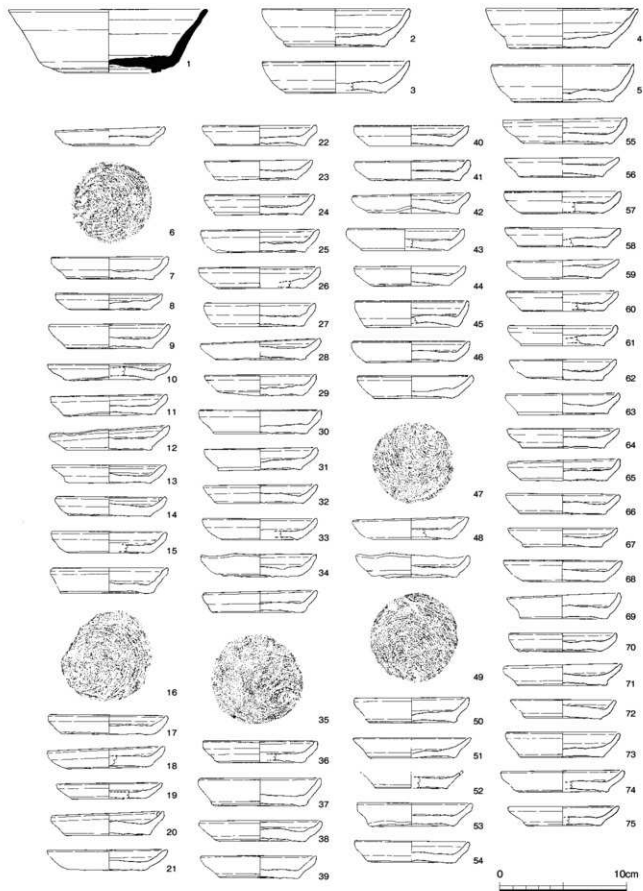
出土遺物 (第21図23) 土坑やや東側から刀が横たわった状態で出土している。刀の刃は途中欠損し、折れている。長さ24.4cm、最大幅5.6cmを測る。

⑥土器廃棄遺構 (第16図) 調査区南側溝状遺構の上層部で検出された。検出当時、土器が集積した状態のみを検出しており、土器が溜まっていた遺構については、調査当初確認できず、検出には至らなかった。流れ込みと考えられる須恵器以外は全て土師器の坏と小皿が出土している。

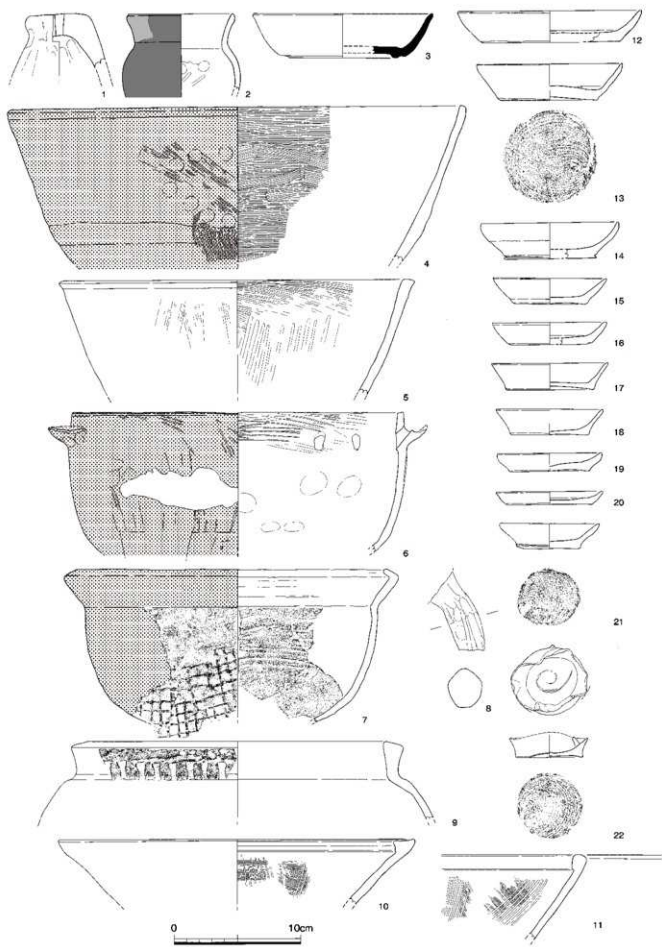
出土遺物 (第22図) 1の須恵器坏は牛頭編年ⅥB期頃で、7世紀末にあたり、高さ5.1cm、復元口径15.7cmを測る。2～5までは底部回転糸切りの土師器坏で、6～75は底部回転糸切りの土師器小皿である。時期は坏と皿ともに15～16世紀頃と考えられる。土師器杯の口径は11cm台のものが多く、土師器小皿の口径は8～9cm台のものが多。土師器は楕円形状で直径1.2mの範囲に廃棄されていた。



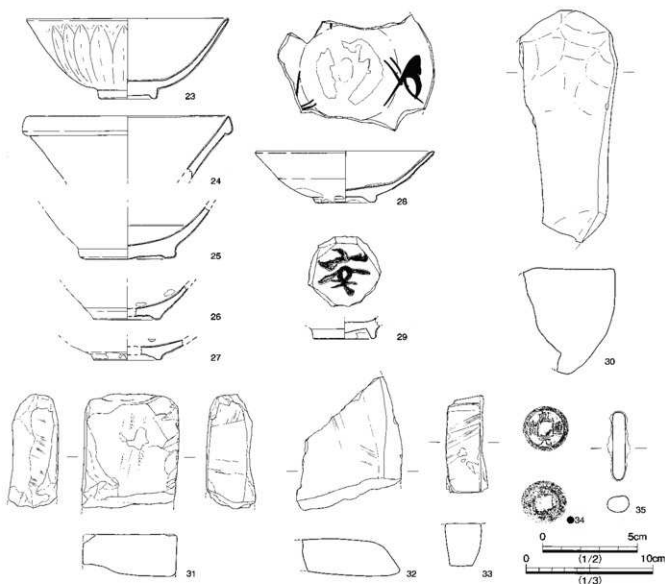
第21図 志登尾北遺跡住居跡・土坑・井戸・ピット・南側溝状遺構出土遺物実測図 (●は1/2、1/3)



第22図 志登尾北遺跡土器廃棄遺構出土遺物実測図 (1/3)



第23図 志登尾北遺跡大溝出土遺物実測図1 (1/3)



第24図 志登尾北遺跡大溝出土遺物実測図2 (●は1/2、1/3)

⑦その他遺構・出土遺物(第12・21図) ビット3は調査区東側で検出された。直径45.0cmを測る。出土遺物は土師器小皿が出土しており、口縁部が失われている。残存高3.0cm(第21図16)。ビット9は土坑西側で検出され、直径30.0cmを測る。出土遺物は用途不明の鉄球が出土している。直径5.2cm、重さ501.5gを測る(第21図17)。ビット40は調査区西側で検出され、直径42.0cmを測る。出土遺物は脚部が失われた弥生土器の高環が出土している。時期は弥生終末期ごろにあたる(第21図18)。ビット50は調査区東南端に位置する。直径25.0cmを測る。出土遺物は三韓系土器の小片が出土している(第21図19)。ビット52もビット50と同様、調査区東南端で検出された。寛永通宝が出土し、新寛永通宝と考えられる(第21図20)。ビット59は調査区西側、3号住居跡北側で検出され、瓢箪形土器の頂部の小片が出土している。ビット59のほかに、包含層からも出土しており、色調から同一個体と考えられ、中央部に約3~4mmの穴が施され、全面に丹が塗られている。沈線は10本

程度に復元できるか。また、内面に絞り痕が確認でき、残存高3.8cm、径は6.4cmを測る（第21図21）。ピット65は調査区中央南側で検出され、直径25.0cmを測る。出土遺物は、弥生土器の高坏で口縁部片が出土しており、復元口径14.4cmを測る（第21図22）。

(3) まとめ

志登尾北遺跡の主な遺構として、調査区北側において東西に延びる大溝が挙げられる。大溝は幅2～3m、深さ約1.5mで、断面はV字形に近い逆台形状をなす。この大溝は市内の調査例と比較すると、中世の屋敷を囲う濠の可能性が高い。濠の時期は出土土器より15～16世紀ごろと考えられる。南側の溝状遺構についても、近世の遺物が多く出土しているが、大溝に並行して掘られている様子が確認できる。そのため、時期差はあるが、二重の濠が作られていた可能性がある。濠には水が蓄えられていたと考えられ、大溝下層には葦のような植物が多く残っていた。

第4章 おわりに

神在横島遺跡第2次調査では、古代の鍛冶関連遺構が1基検出された。この遺構が検出されたのは山裾谷部を整地した場所である。1基の鍛冶関連遺構のために谷部を埋めるような大規模な整地を行うということは考えにくく、付近に同様の遺構、もしくは炭窯など鍛冶を行うための鉄器生産に関連した施設を設けている可能性がある。

志登尾北遺跡の大溝に関して問題となるのが、屋敷の所有者についてである。志登集落には中村姓が多く、今回の調査地点も中村家のもので、中世以降の貴重な古文書（中村家文書）が伝来している家にあたる。文書によると中村氏は松浦党の一派であり、鎌倉時代には糸島市大門付近を拠点にした御家人であった。南北朝期には北朝方について活躍し、この頃から志摩郡にも影響力を持つようになったようだ。天正年間（1573～1593年）には原田了榮から志摩郡の中に一町の土地をあてがわれており、中世末期には原田家の家臣団に組み込まれていたようである。中村氏がいつの頃から志登に居住したのか明らかではないが、当地に展開した有力氏族の一つとして、この環濠居館の主として有力な候補と言える。

また、本調査地点の位置する集落は古くからの家が立ち並ぶ。周辺は志登遺跡群として発掘調査が行われており、弥生時代～中世を中心とした集落遺跡であることが明らかとなっている。今回の調査は、志登集落内の中世から現在の町割りに至る変遷を考える上で貴重な資料となりうる。また、調査地点西側には段落ちがあり、南北方向に延びている。この段落ちは現在、途中で切れて無くなっているが、以前は集落に沿うように延びていたと考えられ、古い集落の様子を現代に伝える重要な資料の一つである。

圖 版



1-1 神在横島遺跡第2次調査Ⅰ区全景（北東から撮影）



1-2 神在横島遺跡第2次調査Ⅱ区（南西から撮影）



1-3 神在横島遺跡第2次調査Ⅰ区紡錘車出土状況



1-4 神在横島遺跡第2次調査Ⅱ区土器溜まり全景



1-5 神在横島遺跡第2次調査Ⅱ区土器溜まり土器集積状況



1-6 神在横島遺跡第2次調査Ⅱ区焼土坑全景





3-1 志登尾北遺跡全景



3-2 志登尾北遺跡大溝（北西から撮影）



3-3 志登尾北遺跡大溝土層断面



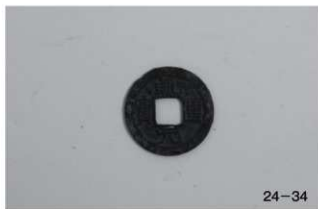
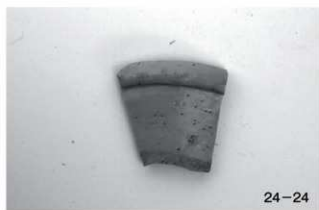
3-4 志登尾北遺跡3号井戸全景



3-5 志登尾北遺跡土坑



3-6 志登尾北遺跡土器廃棄遺構







報 告 書 抄 録

ふりがな	かみありよこばたけいせき2・しとおぎたいせき							
書名	神在横畠遺跡2・志登尾北遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	糸島市文化財調査報告書							
シリーズ番号	19							
編著者名	秋田 雄也							
編集機関	糸島市教育委員会							
所在地	糸島市前原西一丁目1-1							
発行年月日	平成31年3月31日							
ふりがな	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名		市町村	遺跡番号					
神在横畠遺跡 かみありよこばたけいせき2	糸島市加布里 429番、431番、432番 435番5、442番2	40222		33°54'43"	130°17'87"	2018/5/24 } 2018/7/23	320㎡	宅地造成
志登尾北遺跡 しとおぎたいせき	糸島市志登 520番	40222		33°34'14"	130°13'14"	2018/8/31 } 2018/10/19	110㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
神在横畠遺跡	散布地、生産遺跡	古墳～奈良	焼土坑、土器溜まり		須恵器、石器、鉄滓			
志登尾北遺跡	集落、城館跡	中世	溝、井戸、柱穴		土師器、陶磁器、鉄器			

神在横畠遺跡2・志登尾北遺跡

糸島市文化財調査報告書 第19集

2019年3月31日

発行 糸島市教育委員会

糸島市前原西一丁目1番1号

印刷 正光印刷株式会社〔糸島営業所〕

〒819-1117 福岡県糸島市前原西一丁目12番1号201